

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保	
現 状	・授業は真面目に受けている。予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習活動の計画、実践、定着が望まれる。 ・専門学科では各種検定に向けた演習を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。	
達成目標	①【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合	②【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率
	80%以上	それぞれ90%以上
		③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率
方 策	・学習についてのアンケートを通して、現状を把握し、家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を活用し、主体的な態度を育成する。	・ホームルームや進路学習等から資格取得や進路実現への意欲を喚起していく。 ・手帳を活用して授業や課題に計画的に取り組ませる。 ・教育用クラウドサービスを活用し、生徒の実態を調査し把握する。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和8年度 桜井高等学校アクションプラン — 2 —		
重点項目	学校生活	
重点課題	・遅刻生徒の減少 ・SNS等の正しい使い方	
現 状	・朝の登校時間に余裕がなく時間ぎりぎりに登校する生徒や通院を理由に遅刻する生徒、身体面の症状から遅刻してくる生徒が少なくない。 ・明るく挨拶をする生徒は多い。その一方で、挨拶をしないなど社会の一員としての行動規範がしっかり身に付いていない生徒もみられる。 ・校内でのスマートフォンの使用ルールが守られていない。スマートフォンのSNS等に、安易に画像や情報をアップする行為、誹謗中傷等のトラブルの発生も懸念される。また、ゲームに興じる生徒も多い。	
達成目標	①遅刻をしない生徒の割合。	②SNSの危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合。
	70%以上	90%以上
方 策	・遅刻を「やむを得ないこと」とせず、朝の過ごし方や十分な睡眠の重要性について、ホームルームや集会を通じて継続的に指導を行う。また、遅刻を繰り返す生徒に対しては、個別のカウンセリングを実施し、家庭との連携を図りながら支援体制を構築し、適切な指導に努める。	・全校集会やホームルーム、ネット安全教室の機会を通じて、SNSの適切な利用と危険性について継続的に指導を行う。生徒会や生活向上委員会には、校内における「スマートフォン使用ルールの策定」について主体的に考えてもらう。また、家庭での使用ルールについて話し合ってもらうことで学校と家庭が連携して、生徒が健全な学校生活を送ることができるよう働きかける。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和8年度 桜井高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	・進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立 ・組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進	
現 状	・学習の記録や面談によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 ・受験を意識した学習に取り組む始める時期が遅く、学習時間が不足している。	
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会	②卒業時点で、在学中の進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合
	1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上	80 %以上
方 策	・生徒の学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 ・担任、副担任以外の教員も面談に当たり、生徒が多くの教員と関わるように努める。 ・学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。	
	・外部模試等の結果を教員間で適切なタイミングで共有し、学年会や検討会等を通して問題点や課題の共通理解を図る。 ・生徒の週課題、自主学習への取り組みを調査し、スタディサブリの使用等も含め、量と質の適正化を図り、家庭学習を充実させる。 ・進路講演会、大学出前講座、卒業生の報告会、職業体験会等を実施して、生徒の意欲の向上を図る。	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和8年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動	
重点課題	・部活動の活性化 ・学校行事を通じた主体性と社会性の育成	
現 状	・「部活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に則った運営を行い、活動満足度は高い水準を維持している。一方で、1年生の加入率が低下傾向にあり、部活動を通じた人間形成の機会確保が課題となっている。 ・行事等において、指示を待つだけでなく自ら考えて行動する力や、集団で課題を解決する経験(合意形成等)に伸びる余地がある。	
達成目標	①部活動に対する自己達成度	②学校行事が自己成長や他者への貢献につながったと感じる生徒の割合
	80%以上	80%以上
		③学校行事が学校生活の充実につながったと感じる生徒の割合
		70%以上
方 策	・部長会議を定期開催し、リーダーとしての自覚を高めるとともに、活動目標の明確化と振り返りを行う。 ・校内掲示や学校ホームページを活用し、部活動の成果や魅力を発信して活気を醸成する。	
	・体育大会や球技大会等の実施にあたり、生徒会や各系の活動を支援し、生徒が役割を持って主体的に取り組む場面を確保する。 ・行事の準備プロセスにおいて、ICTを活用した意見集約やアイデア募集を行い、生徒の提案を行事運営に反映させる。	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和8年度 桜井高等学校アクションプラン ―5―		
重点項目	その他	
重点課題	心身の健康保持と学校生活への適応	進路研修
現 状	- 生徒が抱える悩みが多様化し、長期間欠席する生徒も増加している。 - 生活習慣の乱れから体調を崩し、授業や部活動に集中できない生徒がいる。	進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的として実施している。この研修は、生徒の進路希望状況や選択肢の拡大、各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
目 標	①教育相談活動の充実 ②健康に関する自己管理能力の育成	進路に対する関心・意欲が高まった割合 80 %以上
方 策	- 支援を必要とする生徒に対して、スクールカウンセラーや巡回指導員との連携を深め教育相談活動の充実を図るとともに、適時にチーム支援会議を開催し、きめ細かい支援を行う。 - 保健だより等を通して、食事や睡眠等の生活習慣の乱れが健康へ及ぼす影響について発信する。	- 生徒の進路希望や適性、社会情勢等を勘案し、より最適な研修を立案する。 - 生徒が研修に対して目的意識をもって積極的に参加できるように、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 - 進路意識を高めるとともに、学習意欲と資格取得への意識が高まるように指導する。 - めまぐるしく変化する多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動等も取り入れる。 - 感染症の状況も踏まえ、安心して安全な研修を検討していく。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった